

普及活動情勢報告（令和5年3月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

病害の特徴を知り防除技術の向上を図ろう！～第2回 JA 土佐くろしお青年部中土佐支部勉強会～



病原菌の特性などを説明する
普及指導員

2月20日、JA土佐くろしお中土佐支所で、同青年部支部が作物の病気と防除対策についての勉強会を10人が参加して開催しました。

当課は講師として、前回のテーマ「土づくり」について振り返りを行った後、今回のテーマ「作物の病害と防除対策」について、病気の発生要因や病原菌の特性、防除対策について説明を行いました。今回は、農薬メーカーから微生物農薬の特徴や使用方法などの説明もありました。

参加した生産者からは活発な質問が出たほか、「常温煙霧法の話が聞きたい」「テーマを絞って深掘りしたい」などの声がありました。

当課は今後も関係機関と連携し、勉強会の開催を支援していきます。

関係機関とともに産地の振興を！～JA土佐くろしお管内農業振興連絡協議会～



成果報告や情報交換する参加者ら

2月24日、JA土佐くろしお管内農業振興連絡協議会を開催し、JA、3市町、農業振興センターがともに、各戦略チームの令和4年度活動や情報を共有しました。

活動報告では、地域振興、販売、主要9品目について今年度の成果を確認しました。また、当課からはIoPクラウドSAWACHI、農福連携及び有機農業の取組を、JAからはミョウガのシンガポール市場視察、クラスター事業経過、低コスト肥料試験等をそれぞれ情報提供しました。

管内の生産、販売等に係る動きを共有でき、活動の成果と今後の課題を共有することができました。

引き続き、当課は産地の振興に向けて、関係機関との連携強化を図っていきます。

新たな集落営農組織を設立！～大股営農組合設立総会～



大股営農組合設立総会

2月25日、中土佐町大野見の大股農業共同館において、大股地区農業者6人が、町、当課職員の同席する中で大股営農組合の設立総会を開催し、3月1日設立・活動開始を決めました。

会は、委任を含め13人の賛同を得て、動力噴霧機等の農機を共同利用して営農の継続を図ることなどの趣旨説明の後に規約、役員、及び事業計画を承認しました。また、今後の集落協定との関係や、動力噴霧機の利用範囲等が確認されました。

当課は、資料作成や会務の進行などをサポートし、町とともに、利用料金などについて助言を行いました。

今後は、利用料金の追加設定などについて支援していきます。

管内の農業振興を目指して ～第2回農業改良普及推進協議会開催～



活動実績を報告する普及指導員

2月27日、須崎農業振興センターが農業者、JA、市町職員など14人を招いて地区農業改良普及推進協議会を開催しました。

当課から、本年度の重点課題「考える担い手がつくるミョウガ産地の発展支援」「多様な担い手による中山間農業の再編」についての活動実績と、次年度の計画について説明し、意見交換を行いました。

参加者からは、後継者・労働力の確保が難しいこと、資材・農薬等のコストが増加していることなどの農業を取り巻く厳しい現状が報告され、対応策や市町の支援策などを共有しました。

当課は地区の課題解決・農業振興に向けて、関係機関と連携して取り組んでいきます。

有機栽培農家の課題解決を目指して ～育苗管理改善に係る調査ほの設置～



調査ほの設置準備をする普及指導員

2月28日、中土佐町大野見地区の有機JAS栽培農家1戸に、育苗管理についての調査ほを設置しました。

当課が1月に管内の有機栽培農家に対して行った聞き取り調査により、栽培管理等について課題を抱えていることが分かりました。

大野見地区の農家は、育苗時の生育が遅いことが課題であることから、当課が提案して、基本的な育苗管理の確認と合わせた調査ほを設置し、課題解決を目指すことになりました。

播種後、順調に生育してきており、今後も、栽培管理の指導等を進めていく予定です。

当課は、個々の有機栽培農家が抱える課題を解決していけるよう、支援していきます。

津野山地域の農業の未来を考えよう ～津野山地域営農連絡協議会全体会～



意見交換する参加者ら

3月1日、JA高知県津野山営農経済センターで、JA、津野町、梶原町、高幡地域本部、農業振興センターの職員20人が参加し、津野山地域営農連絡協議会全体会を開催しました。

当課は、日程調整や資料の取りまとめ、当日の進行を行いました。

会では、今年度活動実績の報告と、来年度の取組について協議しました。茶・ユズの振興計画、農地の継承事例などの課題を共有し、来年度、高齢化が進む地域で農業生産額・農家所得を維持できるよう関係機関が連携して活動することを確認しました。

当課は今後も、関係機関と協力して、津野山地域の課題解決に取り組んでいきます。

生育・環境データから今後の管理を考えよう ～津野山ミョウガ部会現地研修会～



情報交換をする生産者ら

3月2日、津野町宮谷地区ほ場で、津野山ミョウガ部会が現地研修会を開催し、生産者19人、JA職員1人、当課職員1人が参加しました。

当課は、5月までの管理のポイントを説明し、また、環境測定装置を導入している生産者の環境測定データと生育調査データを活用して作成した、生育状況、管理状況を比較できる様式を配付しました。生産者は、配付した様式を見ながら活発に意見を交わしていました。

当課は今後も、現地研修会等の機会を用いて、データ駆動型農業を推進し、生産者の所得向上に繋げていきます。

ユズの安定出荷に向けて ～津野山ユズ部会剪定講習会～



実演講習を行う職員

3月3日、栲原町下西の川地区及び津野町力石地区のほ場で、津野山ユズ部会剪定講習会が開催され、生産者43人、JA職員1人、当センター職員2人が参加しました。

当課は、剪定の目的やポイント等を説明し、実演を行いました。また、「LAI測定アプリ」の紹介も併せて行い、剪定前後の数値を説明しました。

生産者からは、「こういった場合にはどれを切ったらよいか」など、活発な質問や意見がありました。

当課は今後も、津野山地域のユズの安定生産に向けて、講習会などを通じた指導を行っていきます。

シシトウの初心者向け収穫作業マニュアルの作成に向けて ～作業時の服装等の撮影～



シシトウ収穫用の作業台車

3月14日、須崎市のシシトウ施設で、収穫作業の初心者向け動画マニュアルを作成するため、農業者などに協力してもらいシシトウ収穫作業についての撮影を行いました。

撮影は、作業時の服装や使用する道具、ハウスに入るときや収穫の際の注意点などが分かるように、農業者の意見も参考に行いました。

今後は、撮影した素材を基にシシトウの収穫作業マニュアルを作成し、新規就農者や新たに雇用された作業員が活用できるよう、管内農家に提供していきます。